

2022年5月12日(木) 19:30～

令和4年度

第1回 セミナー 学級の困った！を一人で抱え込まないで

議事録作成 玉置ゼミ7期生 下野綾巳

【今回の困りごと】

▼子どもの背景に寄り添う (5年)

やんちゃな男子の授業中の態度の悪さ

▼真の話し合い (6年)

グループの話し合いが、タブレットに入力していたりして、真の話し合いになっていない

▼宿題の捉え (6年・2件)

宿題が遅れる、出さない子への指導

▼現場のインクルーシブ教育 (3年)

特別支援の子どもの受け入れ

▼高学年の学習意欲 (5年)

高学年となり学習意欲を失いかけている子どもへの対応

▼支援員と子ども (1年)

支援員の言うことを聞かない子どもへの対応

【内容】

▼宿題の捉え (6年・2件)

宿題が遅れる、出さない子への指導

➡宿題を強制して良いのか。

学校でやらせることが良いことなのか。

周りの子どもからも宿題をやらずに遊ぶ当該児童に不満が出る。

宿題をやらせることの意味に疑問を抱く背景とは？

・家庭に「学び」を支える雰囲気がない

＝「家庭力」に頼ることはできない

・九九がおぼつかないという背景あり

＝授業中は、周りに聞くことが出来るが、一人では困難かもしれないという見取り

《他の先生方のご経験》

- レベルに合った宿題量と質にすべきか。(5年)
 - ➔ 字が書けない子(平仮名も厳しい)への宿題量の疑問
- 宿題をやっこない子どもは毎年いる。
 - ➔ 強制させたことは、ない。
「遊び」が当該児童の心にとって、プラスにはたらくのであればそれで良い。
- 家庭的な問題の宿題の対応に経験あり
 - ➔ サインを求める宿題(音読等)は、出さない配慮

《和田先生のご意見》

● 宿題の捉え

- I. 学びの習慣化のための「宿題」
- II. 当該児童の困る基礎力の欠如が表出する「宿題」

● 子どもの将来を想う教員に

「あなたのなりたいものは何？」

「基礎的なことは身につけて、自分の道を切り開いて欲しい」

基礎的な能力の目安

- ・ 小学校3年生までの漢字が読めると、新聞が読める
- ・ 計算は、電卓を用いる(周りの子どもたちの理解も高学年であれば、見通し可)

《玉置先生のご意見》

● 教師は、ずっと一緒にいられない

どんなに優秀な教師でも、ずっと一緒に人生は歩んであげられない。

だからこそ、子どもを心配し想っていることを言葉で伝える。

▼ 高学年の学習意欲 (5年)

高学年となり学習意欲を失いかけている子どもへの対応

- ➔ レベルの上がった学習内容に取り組む前に諦めてしまう子ども。
「こんなのめんどくさい」「やりたくない」と口にする。
怒られ慣れている学年でもあり、頑張ることを格好悪いと思っている。

《他の先生方のご経験》

●人を傷つける言葉への自覚

➡不意に出る言葉が人を傷つけることへの自覚を持たせる指導を心がける

子どもになって欲しい姿を先生が見せる

●個人の感情が全体の感情になってはならない

➡「今感じているたまらない気持ちは、後で聞かせて欲しい」等

個人の負の感情が全体へと広がらない声掛けをする

《和田先生のご意見》

●5年生は、「学習意欲の低下」が見られやすい

5年生は、字も小さくなり、急に学習内容の難易度が上がるため負担を感じやすい

●「言葉」の捉え

I. 思っても良いが、口に出して良いかは考えて発すること！

思うことは、否定しない。しかし、口に出して良いかは考える必要がある。

II. 子どもを主催者に！

子どもに「条件：みんなが楽しめること」を提示し、企画をさせる。

主催者になった時、好き勝手はできなくなる。

III. 一人ずつ味方に！

ネガティブな言葉につられていた子どもの頑張りを価値付けることで
頑張る子を増やしていく。すると、孤独にはなりたくない発信元にも届く。

《玉置先生のご意見》

●全員を一気に変えられることはない

全員を丸ごと変えようとするのではなく、「個」を見て変容させていく

●先生が気にしすぎないこと

先生が反応を示すことで、「嬉しい」と感じる子どももいる。

先生が気にしすぎず、毅然とした対応を取ることも大切。

▼子どもの背景に寄り添う (5年)

やんちゃな男子の授業中の態度の悪さ

- ➡授業から逸脱したり、立ち上がりをするのではないが
他クラスに比べて静かになる時間が極端に短い。

《他の先生方のご経験》

- 話してはいけない場面で話すことが面白いと思う子がいる
➡目立ちたい子

どうして目立とうとするのか？

- ・相手にしてもらいたい
- ・かまってもらいたい

《和田先生のご意見》

- 先生に嫌われても構わないが、友達に嫌われることは困る
先生とは、1年でお別れだが、友達は地域との関わりもあり、長い付き合いになる。
友達関係を良好に保たせることが重要。

●「目立ちたい」への捉え

I. 存在を認める

「貴方は、そのまま十分素敵なのに、どうして目立とうとするの？
先生にとっては、そこに居るだけで十分目立っているのに。」

II. 怒らない

静かにすべき時間に当該児童の隣に立って、作業に目を向けさせる

III. 話す時間の提供

「今から、〇〇さんに3分時間をあげます。」

▼真の話し合い (6年)

グループの話し合いが、タブレットに入力していたりして、真の話し合いになっていない

《他の先生方のご経験》

- タブレットを広げて、話し合いをすることはしない

《和田先生のご意見》

●ノートはメモである

ノート／タブレット／プリント 等は、伝えるための思考整理のメモ
ペアワークやグループでの意見交流の際は、メモは見ない
「自分の言いたいことを伝える」＝伝える力の育成

●意見を1つにまとめる＝教師のため

何人かが集まって同じ意見になることはない。
周りの意見を聞いて、自分の考えがどう変容したのか、どう確信を持つようになったのか。
＝話し合い（聴き合い）の意義

▼支援員と子ども（1年）

支援員の言うことを聞かない子どもへの対応

- ➡多動性・衝動性のある子。支援員さんとの相性もある。
担任と特別支援学級の先生の話は聞く

《和田先生のご意見》

●変わるのは大人

- ・特別支援学級の子どもは、「この人の言うことは聞く」という思いが明確であり、校内に2人も話を聞くことの出来る先生が居ることが幸せ。
- ・交流は、「学級の雰囲気心地よい」と思える時間であり、「みんなと同じ」にする時間ではない。
- ・支援員さんと担任の思いを一致させて、支援していくことが重要

▼現場のインクルーシブ教育（3年）

特別支援の子どもの受け入れ

- ➡交流にくる特別支援の子どもの発言にピリ付いた表情と雰囲気

《和田先生のご意見》

●先生がお手本になる

雰囲気が明るくなるように、ユーモアで舵をきる

●先生が分かってあげる

口には出さず、表情だけで留めていることの感謝をする。
あの子のせいで叱られる の事象を起こさない。